

令和 2 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立萩原小学校	学校 No.	2 1
-------	-----------	--------	-----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校では、『児童の優れた個性を伸ばし「美しい心と 夢と たくましく生きる力」を持つ萩原の子を育てる』を教育目標に、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざしている。

例年、福祉教育について、さまざまな体験活動や交流を通して、「福祉の心」を育てることをねらいとした実践活動を行ってきた。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、地域でのボランティア活動や、お年寄りとの交流会等が全く行えない状況になった。そこで今年度は、5年生の福祉教育に力を入れ、福祉社会実現への礎を築いていこうと考えた。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 5年生総合学習「ともに生きる」(1学期) ～福祉について考える～

ガイダンスとして「福祉」に触れ、自分たちの興味や関心に応じて調べ学習を進めた。

児童が興味を持って調べた概要は以下の通りである。

・手話	・車いす	・盲導犬	・点字	
・障害のある方の日常	・障害のある方へのサポート	など		

車いす体験をする児童



(2) 5年生総合学習「ともに生きる」(2学期)

① 福祉実践教室

例年講師の先生をお招きし、福祉実践教室を行っているが、今年度は担任が講師役を務め、「車いす体験」「手話の体験」「視覚障害者ガイドヘルプ」を行った。各種体験をすることで、体の不自由な人にどのように接していけばよいかを学び、その苦労や大変さを実感することができた。



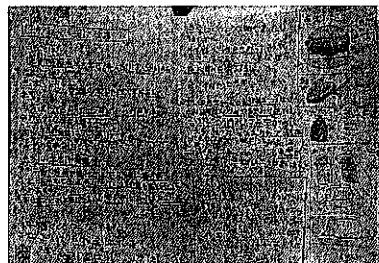
ガイドヘルプを体験する児童

② 福祉と共生について考える

福祉実践教室での実体験を経て、児童たちはそれぞれのテーマをより追究していくことにした。調べ考えたことを児童相互に意見交換し、各児童が「自分にできる福祉」について追究することができた。



調べたことを意見交換する児童



【児童がまとめた例】
 考えたことをまとめたポスター。左の例では、単に点字について調べただけでなく、製品のどこに付けて、どのように生かしていくかも考案されている。また、視覚障害の方と、今後どのように共生していくかも言及している。

3. 福祉教育の成果と今度の課題

福祉実践教室や調べ学習を通して、いろいろな立場・状況の人がいることや、誰もが一人ではなく共に生きていることを実感できたと思う。子どもたちが活動を通して学んだことを、体験や知識で終わらせず、社会の一員として、社会のために行動していこうとする態度や意識を今後も継続して高めていきたい。

令和2年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立中島小学校	学校No.	22
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目標 お年寄り、体が不自由な方や地域の方との交流を通して、自分たちに何ができるかを考えることで、豊かな心を育成する。</p> <p>(2) 計画 特別養護老人ホームや地元老人会のお年寄りとの交流、あいさつ運動、運動会や学習発表会へのお年寄りの招待、各種募金活動、学校畑での栽培収穫活動など</p> <p>(3) 推進体制 福祉推進委員会を組織し、具体的な活動の計画・立案等を検討して推進していく。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉実践教室（6年生：中止） 6年生全員が、「車いす体験」「手話体験」「点字体験」を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。代替措置として、道徳や学級活動を通して、6年生全員が「福祉」に関する意識を高める活動を行った。</p> <p>(2) 特別養護老人ホームのお年寄りとの交流（3年生：中止） 施設を訪問して、歌や楽器の演奏をしたり手紙やペンダントをプレゼントしたりする活動を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。</p> <p>(3) 地元老人会のお年寄りとの交流会（1年生：中止） 地元のお年寄りから、コマまわしやけん玉など昔ながらの遊びを教えてもらいながら交流する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。代替措置として、教員が講師となり昔ながらの遊びの伝承会を行った。</p> <p>(4) ペットボトルキャップの回収運動（全校児童：5月～2月） 飼育環境委員会を中心に、アフリカの子どもたちにワクチンを送るためにペットボトルのキャップを集める活動を行った。</p> <p>(5) 募金活動（全校児童、保護者、教師：5月～2月） 緑の募金、赤い羽根共同募金を実施した。</p> <p>(6) 学校畑での栽培収穫活動（全校児童、教師：4月～12月） タマネギやジャガイモの苗植えや収穫を、地域の方の協力のもと、全学年で実施した。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生の児童が、道徳や学級活動を通して、体が不自由な方やお年寄りは、生活するうえで多くの不便があることを理解することができた。また、思いやりの心が育ち、「福祉」への関心が着実に高まってきた。 ・教員が講師となり昔ながらの遊びの伝承会を行ったことで、「昔遊び」に対する理解を深め、伝承文化の継承を行うことができた。 ・世界には困っている人が多くいることから、児童会や委員会を中心に募金活動やペットボトルのキャップ集めを行った。一人の力は小さいが、みんなで協力すれば困っている人の力になることを学んだ。 ・障害の有無や社会的弱者などへの偏見にとらわれず、人と人とが楽しく助け合って生活できるように、今後も積極的に交流活動に取り組んでいきたい。 ・地域の方の協力のもと、学校畑でのタマネギやジャガイモの苗植えや収穫活動を通して、自分の生活している地域への愛着や自然に対する崇高の念を育むことができた。 			

令和2年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立千秋小学校	学校 No.	23
<p>1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <ul style="list-style-type: none">○ 目標<ul style="list-style-type: none">・ボランティア活動に取り組み、助け合うことの大切さを学ばせる。・地域のお年寄りとふれあい、高齢者に思いやりをもって接していけるようにする。・福祉体験活動を通して、障害のある方への理解を深めるとともに、共生の心を育む。○ 計画<ul style="list-style-type: none">・福祉体験活動 5年（1～3月）○ 推進体制<ul style="list-style-type: none">・児童会を中心に日々の活動に取り組む。・総合的な学習のカリキュラムに福祉関係の学習を意図的に取り入れて実施する。 <p>2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <ul style="list-style-type: none">○ 福祉体験活動 5年（1～3月）<ul style="list-style-type: none">・5年生が、障害をもつ方々の生活を考えるきっかけとなるように、資料「共に生きる」を使用し、体験学習を行った。 <p>3 福祉教育の成果と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none">○ 資料を使った体験活動により、体の不自由な方や高齢者への理解を深めることができた。特に、障害のある人の暮らしを疑似体験できたことはよい学習となった。○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、例年のような福祉実践教室を行うことができなかった。○ 児童の自主的な活動の支援を続け、今後も福祉教育がさらに児童の実態に即したものになるように、計画の見直しや修正を進めていきたい。			

令和2年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立千秋南小学校	委嘱年度	令和2年度
-----	------------	------	-------

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

(1) 目標

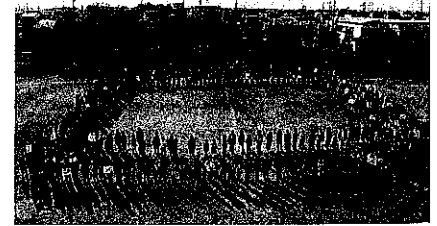
本校は、「心身ともに健康で、確かな学力と豊かな心を持って、未来を拓く千南っ子を育てる。」を教育目標に日々の活動に取り組んでいる。豊かな心を持たせるために、6年生を中心に以下の目標を定めた。

社会福祉についての関心を高め、福祉についての実践力を育む。

(2) 計画

- ① 福祉実践教室（6月）中止
- ② 老人福祉施設訪問（11月）中止
- ③ 人権週間（12月）
- ④ ボランティア活動（12月）

せんなんのわ



2 福祉教育の具体的な活動の内容（活動の記録）

(1) 福祉実践教室

今年度の福祉実践教室は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、1学期の開催を中止するとの連絡が入り、体験はしなかった。

(2) 老人福祉施設訪問

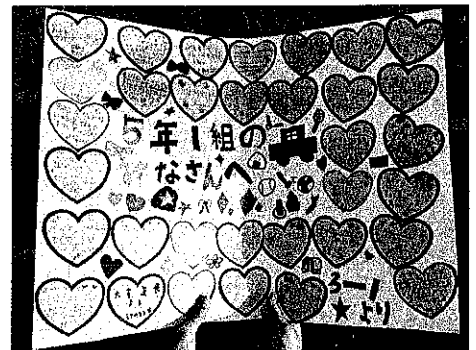
今年度の老人福祉施設訪問は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、学校と施設との話し合いの結果、行わないことになった。

(3) 人権週間

11月25日（水）に、人権週間の取り組みとして、児童会役員主催の人権児童集会を行った。まず、校長から「人権週間」について講話があり、次に児童会役員が、紙芝居「ずっとともだちでいたいから」を、それぞれの役割で読んだ。



翌日11月26日（木）には、毎年恒例の「せんなんのわ」をつくった。「せんなんのわ」は、全校児童が学年の壁を越えて、同じ誕生日の友達や誕生日が近い友達を知って、友達の輪を広げることが目的の一つで、1月から12月までの誕生日順に並び、「せんなんのわ」をつくった。その後、ペア学年に贈る「寄せ書き」の交換を行った。この活動を通し、児童は、これからもお互いのことを大切に思い、いじめのない明るい学校にしていきたいという思いを強く持つことができた。また、人権に関する道徳の授業を行い、相手の気持ちを考えて行動することの大切さを学んだ。



(4) ボランティア活動

福祉の学習を通して、福祉とは「自分自身や家族、友達、身近な人たちなど、すべての人が幸せで安定した生活を送ることができるように、みんなで支え合うこと」であることを学んだ。そこで、自分たちでも身近な福祉活動はできないかを考えた。生活委員会や全校児童で以下の2つの活動を行った。

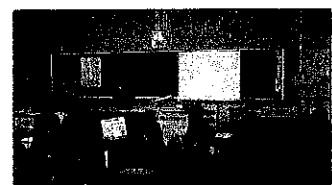
- ① あいさつ運動 ・登校した児童から児童玄関前に並び、あいさつをした。
- ② 校内大掃除 ・学年で担当場所を決め、除草やごみ拾いを中心に清掃活動を行った。

3 福祉教育の成果と今後の課題

校内での人権教室やボランティア活動を通して、友達に優しく接することや、ふわふわ言葉を使うことで、周りが幸せな気持ちになれることを体験することが出来た。これを機会に、普段の学校生活から、一人でも多くの児童が、困っている人に手を差し伸べられるようになったり、優しい言葉がけができるようになったりできるようになることを願っている。福祉とは、「自分自身や家族、友達、身近な人たちなど、すべての人が幸せで安定した生活を送ることができるように、みんなで支え合うこと」ということを、全校に発信し、「福祉」について関心を高めるとともに、全学年に、具体的実践の場を広げることをしていきたい。それと同時に、この活動の大切さを広げていくことを目指したい。

令和2年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立富士小学校	学校No.	25
1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）			
(1) 目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりを深める活動を通して、人を思いやる心を育む。 ・自分たちに何ができるかを考え、実践することで、豊かな心を育む。 			
(2) 計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・人権週間の取り組み（11～12月・・・全学年） ・さわやか運動（9月、1月・・・全学年） ・お礼の手紙 見守り隊感謝の会（2月・・・4・5・6年） ・感謝の一輪手紙（3月・・・6年） 			
2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）			
(1) 人権週間の取り組み			
<p>〈人権・いじめ防止集会の実施〉</p>			
<p>12月の人権週間に合わせて、人権に関するビデオを各クラスで視聴したり、校長による人権講話を行うなどして、人権についての意識を高めた。また、一人一人が考えた標語からクラス代表を選び、表彰を行い、教室に掲示した。さらに、校内で1つ選ばれた標語「友達と笑顔のリレー助け合い」を身近に感じてもらうために「思いやりクリアファイル」を作成し、全校児童に配付した。発達段階に応じた内容で、人権について考える場となった。</p>			
(2) さわやか運動			
<p>学期ごとに児童会が中心となってあいさつ運動を行い、さわやかにあいさつができるように呼びかけた。</p>			
(3) お礼の手紙・見守り隊感謝の会			
<p>本校は、登下校時に200人近くの見守り隊の方に毎日見守っていただいている。そこで、3月に4年生以上の子で感謝を込めて手紙を書き、見守り隊の皆さんに届けた。また、見守り隊感謝の会を開催し、見守り隊の方々に感謝の気持ちを伝えた。</p>			
(4) 感謝の一輪			
<p>卒業式終了後、今まで慈しみ育ててくれた親に感謝の気持ちを伝えるために、花を一輪、手紙に添えて渡した。保護者にとっては、感慨ひとしおのようであった。</p>			
3 福祉教育の成果と今後の課題			
<p>本年度は、コロナウイルス感染症の広がりによって、予定されていた多くの行事が中止となったが、人権週間の取り組みなど、方法を変更しながら実施することができた。また、道徳の時間とも関連させて指導することもできた。今後も積極的に体験活動を取り入れ、子どもたちの心に響く教育を進めていきたい。</p>			



〈Zoomを利用した人権講話の様子〉



〈見守り隊感謝の会の様子〉

令和2年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立末広小学校	学校No.	26
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>目標：すてきなえがおを ひろげよう ～末広小の児童・先生 みんなを笑顔にしよう～</p> <p>計画：推進体制 委員会活動・総合的な学習・英語活動の3つの柱で、福祉教育に取り組んだ。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動 代表委員会… 人権集会 JRC委員会… 古切手回収・エコキャップ回収・赤い羽根共同募金 手足の不自由な子どもを育てる運動 生活委員会… あいさつ運動 ・総合的な学習… 福祉実践教室 <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>児童が「気づき・考え・振り返る」活動を実践してきた。エコキャップ回収や古切手回収などの呼びかけも意欲的に言い、より多くの人に協力してもらおうという気持ちで活動することができた。しかし、それぞれの活動がどのように福祉に貢献しているのかなど、具体的に活動内容を理解している児童は少ない。今後は児童が「自分達で考え・行動する」ことに重点を置いて指導をしていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会web上に掲載させていただきます。また、可能な限り各校でもweb上(ブログ等でも可)に掲載してください。

令和2年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市西成東小学校	学校No.	27
-------	-----------	-------	----

1 福祉教育の取り組み (目標・計画・推進体制)

本校は、社会福祉への関心と理解を深め、様々な体験活動や交流を通して『福祉の心』を育てることをねらいとし、主に5年生の「総合的な学習の時間」の活動を中心に教育活動を進めている。

5年生では、「ぼくらのバリアフリー」をテーマとし、以下のような目標を掲げ、計画立案、実践に取り組んだ。

- | |
|---|
| 目標 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉への理解と関心を高め、思いやりの心を育てる。 ・高齢者疑似体験を通し、高齢者へ理解を深める。 |
|---|

2 福祉教育の具体的活動の内容 (活動の記録)

(1) 福祉のまちについての学習

福祉のまちづくりに関する資料を用意し、障害のある人に対する施設や道具などについて学習し、身の回りにある福祉について関心を持たせた。

(2) 高齢者疑似体験

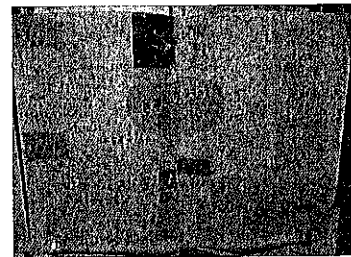
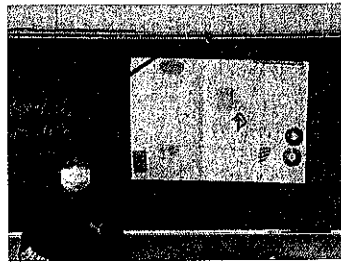
高齢者疑似体験セットを使い、高齢者が日頃どのように生活を送っているかの体験をした。「目が見えにくい」、「耳が聞こえにくい」、「手足の関節が動かしにくい」など、生活での不自由さを体験し、高齢者への理解を深めた。



(3) まとめの学習新聞作り

総合的な学習の時間の福祉体験や調べ学習で学んだことをもとに、福祉新聞を作り、発表掲示した。

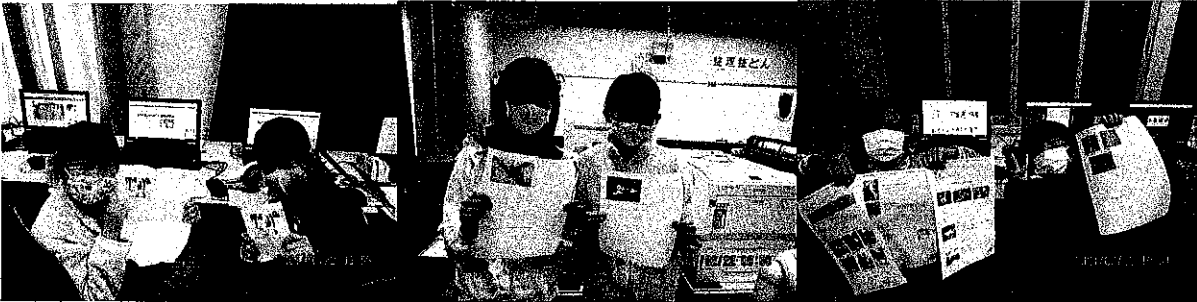
学んだことをもとに、自分たちにできること、学習を通して考えたことなどを考えさせ、記入させることによって、福祉に対する気持ちを深めることができた。



3 福祉教育の成果と今後の課題

様々な活動を通して、児童は障害のある人や高齢者が日々どのように過ごし、どのようなことに困っているのか、どのようなことが大変なのかを知ることができた。そして、自分たちがどう手助けをしたらよいのかを具体的に学ぶことができた。今年は福祉実践教室で体験をしたり、話を聞いたりすることができなかつた。体験から学ぶことも多いので、今後は体験活動を行っていきたい。今回学んだことを生かして、自分ができることを考え、実践できる力を身につけさせていきたい。

令和2年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立今伊勢西小学校	学校No.	28
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人々との交流を通して、お互いの良さを認め合い、心豊かな生活が送れるようにする。 ・共生社会の構築に対し、主体的にかかわることのできる児童の育成を図る。 <p>(2) 計 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室 ・福祉実践教室の事前・事後学習 ・認知症サポーター ・あいさつ運動 ・フェスティバル（運動会）や学校祭（作品展）への高齢者の招待 ・ベルマーク等の収集活動 ・校区内のごみゼロ運動 ・各種募金活動 <p>→・福祉についてパソコン（ネット）や資料を使って個々に調べレポートにまとめ発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベルマーク等の収集活動 ・各種募金活動 <p>(3) 推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に該当する学年または児童会・委員会で、計画的・具体的に推進する。 ・4年生の総合的な活動において、「福祉」について学び、理解を深める。パソコン（ネット）や資料を使って個々に調べレポートにまとめ発表する <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室→中止 ・4年生の総合的な学習の時間をを使い、「福祉」について学び、理解を深める。パソコン（ネット）や資料を使って個々に調べレポートにまとめ発表した。 			
			
<p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>本年度は、メインである福祉実践教室を始め様々な行事が中止になってしまった。そこで、総合的な学習などの時間を使って調べ学習に力を入れ福祉教育を行った。「児童一人一人が興味を持った福祉活動」について、資料やパソコン（ネット）などを使い調べ、レポートにまとめた。中には、家族に取材する児童もいて、大変意欲を持って活動に参加することができた。児童は福祉の必要性や大切さ、さらに福祉に携わる人々の気持ちや課題に対して理解を深めることができた。共生社会の一員としての自覚が高まり、障害のある人々へやさしい手を差し伸べようとする実践意欲の向上が見られた。しかし、日頃の生活の様子を見ていると、仲間を思いやろうとする意識は個人差が大きいので道徳や総合的な学習の授業でも人を思いやる心を育てていきたい。</p>			

令和2年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立葉栗北小学校	学校No.	29
-------	------------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、教育目標「伸びよ たくましく」の精神を学校教育の全面に生かし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざし、日々の教育活動に取り組んでいる。

福祉教育では、総合的な学習の時間に、みんなが住みよい社会とは、どのような社会かを福祉体験やお年寄りとの交流を通して、自分たちのできることを考え、進んで地域社会に奉仕しようとする「ともに生きる」心を育てることを目標とした。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

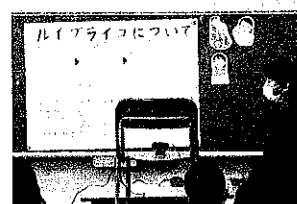
(1) 福祉実践教室（5年生）

点字を打つ、読み取る体験と、手話体験をした。点字については、その重要性だけでなく、仕組みの面白さ、点字を打つことの大変さ、ボランティアの必要性について実感した。手話体験も同様に、重要性だけでなく、仕組みの面白さや、気持ちが通じたときの喜びなどを実感することができた。



(2) 学習発表会（5年生）

「ふだんの 暮らしの しあわせ」をテーマに、5年生が発表を行った。みんなが幸せな暮らしとはどういうことか、点字・車いす・盲導犬・高齢者の介護等々、体験したことや調べたことをもとに、各自が自分の考えを模造紙にまとめ、リモートで発表した。発表会当日は、みんなが住みやすい町を作るために何ができるか、伝え方を工夫して発表することができた。また、発表の資料作成のために、調べたりまとめたりする活動の中で、身近な暮らしにあるさまざまな工夫を学ぶことができた。



(3) 手話を取り入れた朝の歌

朝の会で各学年とも歌を歌っているが、今年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から、合唱を行うことが困難であった、そこで、5年生は、手話を使って「ZARD」の「負けないで」を歌うことにした。初めは、曲に合わせて手話をするのは難しそうだったが、回数を重ねるうちに、抵抗なく取り組めるようになった。5年生は、耳が聞こえない相手にも歌を伝えることができるということが面白いと感じていた。

3 福祉教育の成果と今後の課題

福祉教育は、それぞれの学年が総合的な学習の時間などを使って取り組んでいる。これらの学習を通して、子どもたちの心に芽吹いた福祉の意識をさらに高めていくためにも、相手との温かいかわり方を体験を通して学ぶとともに、単発的な取り組みではなく継続的・発展的に取り組んでいく必要がある。

令和2年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立大和南小学校	学校No.	30
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>ア 目標</p> <p>本校は、「知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい児童を育成する」を目標に掲げ、『自立できる子』を目指し日々の教育活動に取り組んでいる。</p> <p>イ 計画</p> <p>① 「発見！かっこいいカード」の取組（通年）</p> <p>② ベルマーク収集活動（7月・12月・2月）</p> <p>② 異学年交流【なかよしペア活動】（随時）</p> <p>③ 青いリボンプロジェクト（11月～）</p> <p>④ 人権週間（12月）</p> <p>⑤ 入学説明会での保護者向け研修会（2月）</p> <p>2. 福祉教育の具体的な活動の内容（活動の記録）</p> <p>ア 「発見！かっこいいカード」の取り組み</p> <p>『自立できる子』の足がかりとなる「自己肯定感」の育成を目指し、自分や人のよいところ（「かっこよさ」）を自分で見つけ、周りの人と認め合う活動を行った。</p> <p>イ 異学年交流【なかよしペア活動】</p> <p>6年生と1年生、5年生と3年生、4年生と2年生をペア学年として、一鉢運動に取り組んだ。8月に運動会に向けてサルビアを、11月には卒業式に向けてパンジーを植えた。わくわく交流会をZoomを活用して実施した。ペア学年で5～6人のグループをつくり、グループ対抗のクイズ大会を行い、とても盛り上がった。</p> <p>また、6年生を送る会もZoomを活用し、他学年の出し物を教室で視聴した。</p> <p>ウ 青いリボンプロジェクト</p> <p>医療関係で働いている人など、コロナと戦っているすべての人に向けて感謝する言葉をメッセージカードに書き、近隣の事業所に届けた。</p> <p>エ 人権週間</p> <p>Zoomを活用し、人権に関する校長の講話、児童会会長によるいじめ防止の呼びかけを行った。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>今年度は、コロナ禍ということで、例年行っている社会福祉施設等での訪問活動や社会福祉体験活動を実施できなかった。また、その他の活動も、様々な制約を受け実施できないものがいくつかあった。</p> <p>その中、Zoomを活用することで、いくつかの行事を実施することができた。さらに、青いリボンプロジェクトに新たに取り組む、子どもたちの感謝の気持ちを高めることができた。今後もコロナ禍でもできることを探っていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会web上に掲載させていただきます。また、可能な限り各校でもweb上（ブログ等でも可）に掲載してください。



令和2年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井中小学校	学校 No.	31
-------	------------	--------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、社会福祉への関心と理解を深め、様々な体験活動や交流を通して『福祉の心』を育てることをねらいとし、主に5年生の「総合的な学習の時間」の活動を中心に、教育活動を進めている。5年生では、「人にやさしく」をテーマとし、以下のような目標を掲げ、計画立案、実践に取り組んだ。

【 目標 】

- ・高齢者や障害のある人との交流を通して、互いのよさを認め合う。
- ・福祉への理解と関心を高め、思いやりの心を育てる。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 福祉実践教室 → 本年度は中止のため未実施

- ・福祉体験活動が実施できなかったため、福祉に関する内容について「総合的な学習の時間」にインターネットを利用して調べ学習を行ったり、新聞記事の切り抜きで必要なニュース集めをして、朝の会で発表したりする活動を実施した。

(2) 地域のお年寄りとのふれあい活動（昔遊びの会） → 本年度は中止のため未実施

- ・例年は、地域のお年寄りの方を学校にお招きして、コマ回しやお手玉・けん玉などの「昔遊び」を教えていただいたり、いっしょに遊んでもらったりして交流を図っていたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、各家庭で取り組んだり、できる範囲でお互いに教え合ったりする活動を実施した。

(3) 募金活動

- ・児童会と代表委員が中心となって、積極的な募金活動を展開した。1学期に行う「緑の羽根募金」は、緊急事態宣言による臨時休校のため登校日に募金箱を設置して実施した。2学期は、例年通り代表児童による「赤い羽根募金」の活動を行った。3日間実施し、多くの善意が集まった。

(4) 人権週間の取り組み

- ・例年は、人権に関する映画鑑賞会を実施していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、各学級で担任による読み聞かせ（紙芝居・絵本等）を実施した。
- ・各学級のスローガンを考え、全校への発表を行い、その後各教室内に掲示した。
- ・いじめをなくすための標語づくりを全学級で取り組んだ。

3 福祉教育の成果と今後の課題

本年度はコロナ禍のため、様々な活動の取り組みが大変難しい状況であった。しかし、できる活動を通して、児童はお年寄りや障害のある人たちに対して自分たちができることは何かを考え手助けしたいという気持ちをどのように伝えたらよいかを学ぶことができた。今後も、年齢や障害のある・なしではなく、人が人としてどのように関わればよいのかをさらに考え、温かい交流を通して心豊かな人間になることができるように実践を進めていきたい。

令和2年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立千秋東小学校	学校No.	32
-------	------------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、「知・徳・体の調和のとれた、未来を拓くたくましい児童の育成を図る」を教育目標に、「自ら学び自ら考える子」「自らを律し、他を思いやる子」「健康で、意欲的に活動する子」をめざす児童像として教育活動を実践している。日常の学校生活や道徳、総合的な学習の時間等を通して、福祉の心と実践力を持った児童の育成を目指し、福祉推進実践校として以下のように取り組んだ。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1)児童会活動を中心とした活動

異学年交流として縦割り班によるなかよし清掃、また、ペア学年でチームを組んで行うわくわくフェスティバル等、上級生が下級生を上手にリードしながら活動を行う異学年交流を計画し、実践した。

また、赤い羽根共同募金の活動や人権週間での呼びかけを行った。

(2)清掃・環境美化活動

緑化活動を推進し、校内だけでなく、地域の花壇やプランターにも花苗を配布し、美しい街づくりに取り組んだ。

(3)地域の方々とのふれあい活動

地域ボランティアや老人会の協力で、伝統文化等を体験することができた。

2年生…町探検
4年生…グラウンドゴルフ
5年生…稲刈り
6年生…しめ飾り作り

(4)道徳の学習を通して

道徳では、自他の生命を尊重し、他者や社会との関わりの中で、多様な価値を認めながら自分を見つめ直し、自分だからこぞできる役割があることに気づき、勇気をもって行動することができる児童の育成を目指している。例えば、1年生の「はしのうえのおおかみ」では、うさぎやきつねに意地悪をしていたおおかみが、くまに親切にされて心を入れ替える姿を通して、相手のことを思いやり、優しく接しようとする態度を育てることができた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

ア 成果

児童会活動を中心とした異学年交流等の様々な活動を通して、相手を思いやる心や人を敬う心を育てること、また、見守り隊やふれあい活動でお世話になっている地域の方々への感謝の気持ちを育てることができた。

イ 今後の課題

コロナウィルス感染症対策のため、これまでおこなってきた行事が中止になったり、縮小したりすることになった。お世話になっている地域の方々やお年寄りとの交流活動をどのように行っていくか考えていきたい。また、普段の生活の中で、子どもたちが進んで挨拶をしたり、言葉を交わしたりできるようにしていきたい。その中で、弱者を思いやったり、互いの良さを認めて協力し合ったりする心も育つと思われる。



縦割り班によるなかよし清掃



6年 しめ飾り作り